

村上岩船定住自立圏共生ビジョン審議会 議事録

会議名	第1回 村上岩船定住自立圏共生ビジョン審議会																																																																	
年月日	令和5年8月1日(火) 10:28～11:58																																																																	
会場	村上市役所5階 第5会議室																																																																	
出席者	<p>【委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">にいがた岩船農業協同組合</td> <td style="width: 20%;">常務理事</td> <td style="width: 20%;">赤坂 浩一</td> </tr> <tr> <td>関川村商工会女性部</td> <td>副部長</td> <td>伊藤真由美</td> </tr> <tr> <td>越後村上物産会</td> <td>事務局次長</td> <td>大滝 香織</td> </tr> <tr> <td>村上市消防団</td> <td>団 長</td> <td>大竹 憲一</td> </tr> <tr> <td>いわふね森林組合</td> <td>代表理事組合長</td> <td>小田 幸男</td> </tr> <tr> <td>村上市民生委員児童委員協議会連合会</td> <td>副会長</td> <td>海沼 順一</td> </tr> <tr> <td>村上地域グリーン・ツーリズム協議会</td> <td>事務局長</td> <td>鈴木 信之</td> </tr> <tr> <td>新潟県村上地域振興局健康福祉部</td> <td>部 長</td> <td>園田 裕久</td> </tr> <tr> <td>栗島浦村（栗島汽船株式会社）</td> <td>主 任</td> <td>林 久美子</td> </tr> <tr> <td>村上市図書館協議会</td> <td>会 長</td> <td>山口又一郎</td> </tr> <tr> <td>NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター</td> <td>理 事</td> <td>渡辺ひろみ</td> </tr> </table> <p>【村上市】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">村上市</td> <td style="width: 20%;">政策監</td> <td style="width: 20%;">須賀 光利</td> </tr> <tr> <td>企画戦略課</td> <td>課 長</td> <td>大滝 敏文</td> </tr> <tr> <td>企画戦略課</td> <td>参 事</td> <td>山田美和子</td> </tr> <tr> <td>企画戦略課 企画政策室</td> <td>課長補佐</td> <td>忠 康博</td> </tr> <tr> <td>企画戦略課 企画政策室</td> <td>副参事</td> <td>本間 陽子</td> </tr> <tr> <td>企画戦略課 企画政策室</td> <td>主 査</td> <td>中山 幸代</td> </tr> <tr> <td>企画戦略課 企画政策室</td> <td>主 査</td> <td>渡辺 真吾</td> </tr> <tr> <td>企画戦略課 企画政策室</td> <td>主 査</td> <td>山田 浩介</td> </tr> </table> <p>【関川村】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">地域政策課 地域振興班</td> <td style="width: 20%;">主 幹</td> <td style="width: 20%;">渡辺 輝章</td> </tr> </table> <p>【栗島浦村】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">総務課</td> <td style="width: 20%;">主 任</td> <td style="width: 20%;">松崎 香織</td> </tr> </table>			にいがた岩船農業協同組合	常務理事	赤坂 浩一	関川村商工会女性部	副部長	伊藤真由美	越後村上物産会	事務局次長	大滝 香織	村上市消防団	団 長	大竹 憲一	いわふね森林組合	代表理事組合長	小田 幸男	村上市民生委員児童委員協議会連合会	副会長	海沼 順一	村上地域グリーン・ツーリズム協議会	事務局長	鈴木 信之	新潟県村上地域振興局健康福祉部	部 長	園田 裕久	栗島浦村（栗島汽船株式会社）	主 任	林 久美子	村上市図書館協議会	会 長	山口又一郎	NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター	理 事	渡辺ひろみ	村上市	政策監	須賀 光利	企画戦略課	課 長	大滝 敏文	企画戦略課	参 事	山田美和子	企画戦略課 企画政策室	課長補佐	忠 康博	企画戦略課 企画政策室	副参事	本間 陽子	企画戦略課 企画政策室	主 査	中山 幸代	企画戦略課 企画政策室	主 査	渡辺 真吾	企画戦略課 企画政策室	主 査	山田 浩介	地域政策課 地域振興班	主 幹	渡辺 輝章	総務課	主 任	松崎 香織
にいがた岩船農業協同組合	常務理事	赤坂 浩一																																																																
関川村商工会女性部	副部長	伊藤真由美																																																																
越後村上物産会	事務局次長	大滝 香織																																																																
村上市消防団	団 長	大竹 憲一																																																																
いわふね森林組合	代表理事組合長	小田 幸男																																																																
村上市民生委員児童委員協議会連合会	副会長	海沼 順一																																																																
村上地域グリーン・ツーリズム協議会	事務局長	鈴木 信之																																																																
新潟県村上地域振興局健康福祉部	部 長	園田 裕久																																																																
栗島浦村（栗島汽船株式会社）	主 任	林 久美子																																																																
村上市図書館協議会	会 長	山口又一郎																																																																
NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター	理 事	渡辺ひろみ																																																																
村上市	政策監	須賀 光利																																																																
企画戦略課	課 長	大滝 敏文																																																																
企画戦略課	参 事	山田美和子																																																																
企画戦略課 企画政策室	課長補佐	忠 康博																																																																
企画戦略課 企画政策室	副参事	本間 陽子																																																																
企画戦略課 企画政策室	主 査	中山 幸代																																																																
企画戦略課 企画政策室	主 査	渡辺 真吾																																																																
企画戦略課 企画政策室	主 査	山田 浩介																																																																
地域政策課 地域振興班	主 幹	渡辺 輝章																																																																
総務課	主 任	松崎 香織																																																																
[進行]事務局	1. 開会 〈あいさつ〉																																																																	
副市長	2. 挨拶 〈村上市副市長あいさつ〉																																																																	
事務局	3. 委嘱状交付 〈副市長から委員へ委嘱状を交付〉																																																																	
事務局	<p>4. 正副会長の選出</p> <p>村上岩船定住自立圏共生ビジョン審議会条例第5条第1項の規定により、会長副会長の選出につきましては、委員の互選となっておりますが、いかがいたしましょうか。</p> <p>ご意見がないようでしたら、事務局から指名をさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>（賛成の声あり）</p> <p>ありがとうございます。それでは、会長に村上地域グリーン・ツーリズム</p>																																																																	

	<p>協議会の鈴木信之委員、それから副会長に関川村商工会女性部の伊藤真由美委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(拍手により承認)</p>
鈴木会長（以下、会長）・伊藤副会長（以下副会長）	〈就任のあいさつ〉
事務局	<p>5. 議事</p> <p>これより、審議会条例第6条第1項の規定により会長が議長となります。それでは、会長よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>はい。それでは早速ですが、議事に入ります。</p> <p>議事（1）令和4年度取組実績及び令和5年度取組内容について、事務局より説明いただきたいと思います。その後、皆様から、質問をいただきたいと思います。それでは、よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>(1) 令和4年度取組実績及び令和5年度取組内容【資料1・2】</p> <p>(事務局が資料を説明)</p>
会長	<p>ありがとうございました。ただ今説明がありましたが、皆様からご質問等ありましたらお願いします。</p> <p>本審議会は、今年度はもう1回開催となりますが、ぜひとも多くのご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>副会長、何かありますか。</p>
副会長	<p>まとまっているので、私からは特にありません。</p>
委員	<p>前回は質問したかもしれませんが、広域観光ルート開発事業の予算がゼロになっているということで、予算がついてない理由を教えてくださいたい点が1つと、関係人口創出・拡大事業の交流人口と関係人口への取組が載っており、とても素晴らしいと思いますが、地域おこし協力隊で入っても、3年が終わってしまうと帰ってしまうというようなケースが多いと思うのですが、定住に向けた取組で何かあれば教えてください。</p>
事務局	<p>広域観光ルートの開発の事業費の予算がゼロにつきましては、村上市の場合、観光協会に観光関連全般の業務委託をしております。その中でルートの構築についても提案をしているところです。資料には、金額は載せておりません。</p> <p>村上市、関川村、粟島浦村を含む各地域を巡るようなツアーが一番良いかなと思っておりますが、その中で日本海きらきら羽越観光圏推進協議会が、山形県、新潟県、秋田県に関連するプランを作っており、以前ホームページを見たところ、渡辺邸から人形様めぐりツアーなどのツアープランが載っておりました。その辺りをうまくPRしていければいいと思っております。</p>
会長	<p>村上市観光協会で行っているということですね。</p>
事務局	<p>そうですね。旅行プランの作成については、提案をしているところです。</p>
会長	<p>観光協会が3つありますが、そこで連携した話合いは何かあるのでしょうか。</p>

事務局	そこまでは確認しておりません。
会長	多分それがないと、広域観光ルートができてこないのも、その辺是非とも取り組んで欲しいです。それでよろしいですか。
委員	はい。もう一点、関係人口創出拡大についてもお願いします。
事務局	<p>はい。移住支援関係ですが、村上市の話をさせていただきますと、空き家バンク制度が一番最初に出てきます。空き家バンク制度については、関川村も実施しています。その中で、空き家を改修して、村上市に移住された方にはその改修費用を補助する制度があります。あとは補助金1万円を活用した移住体験ツアーとして市内や観光名所、住む場所を巡るような補助支援をやっております。</p> <p>その他には結婚して村上市に住まれると補助金も支給するような制度もあります。</p>
事務局	<p>関川村地域おこし協力隊に関してですが、3年の任期が終わった後卒業する方自体がまだあまり実績なくて、実は1人しかいません。3人ぐらい途中で退任といいますか、卒業できなかった方がいます。</p> <p>今もうじき卒業する方に向けて、実際に事業を起こして、それで生活して住んでいただきたいというのが地域おこし協力隊の目的の一つですので、補助金をこの9月議会に提案するように動いております。</p> <p>具体的には起業に向けた投資に関して、100万円を上限に補助しますという内容です。これは関川村の独自でなくて、国の特別交付税措置される、裏付けのある財源のものを今まで用意しなかったのを用意しようという動きがあります。そういったことで、少しでも起業に向けた後押しができるような取組を進めております。</p> <p>ほかに特徴としては、空き家バンクの関係ですけれども、空き家バンクを通じて住宅改修した時に、関川村は2分の1補助で上限200万、400万までの工事の半分を補助します。条件はいろいろありますが、その心としては、水回りに手を入れるとどうしても、お風呂や台所を直すとお金がかかるので、そこの後押しをして少しでも移住していただきたいというような制度を作っております。関川村はそれぐらいになります。</p>
事務局	<p>粟島浦村では、3年任期を終えた方が起業していらっしゃる方もおります。起業すると補助金100万円を支給します。</p> <p>ただ、今住まいがなく、移住して任期を終えた方も、自分で住まいを確保するのは難しい状態です。それで、空き家を粟島浦村で改修したいのですが、それもなかなか難しい状況であり困ってる状況です。</p>
会長	観光客が増えても受け入れできるような村営住宅の整備というのは、観光客を受け入れるための住宅をということですか。観光客の受入のための村営住宅とはどのような意味でしょうか。
事務局	現在、観光客が増えても受入できるような村営住宅の整備はしていません。今後整備をしようということになります。ただ、村営住宅を建設中であり、現在粟島浦村の職員などが入る予定になっております。
会長	ゲストハウスなど、そのような民宿的なものを整備するということですか。
事務局	はい、そうです。ゲストハウスを今建築中です。

事務局	<p>先ほどの地域おこし協力隊の話で補足ですが、昨年度につきましては村上市の現状ですが、2名隊員が退任しましたが、引き続き村上市に定住していただいているということでもあります。あと、制度が始まってから現在までに20人近い隊員の方が定住に繋がっております。地域おこし協力隊だけではなく、その他空き家バンクであるとか、UIターンの事業であるとか、そのような制度を使いまして、平成27年度からの積み上げですが、現在まで177名の方が移住に繋がっているというデータがありますので、ご紹介させていただきます。</p>
事務局	<p>先ほどの栗島浦村の村営住宅のところの記載ですが、栗島浦村からご報告いただいたときは、村営住宅の整備に注力されるってということの記載でした。こちらの編集がうまくいかなくてご迷惑をおかけしました。</p>
委員	<p>先ほど観光振興の推進ということで、地域観光ルートの開発事業では村上市観光協会に業務委託している関係で、ゼロという回答をいただいているんですが、質問は物産振興の部分になりますが、令和5年度の取組として、引き続き内容の方はいろいろ事業等は変わってはいないんですけども、関川村からの補助金がゼロということで報告を受けているのですが、資料2の予算が125千円と計上されているので、ぜひいただきたいです。</p>
会長	<p>前回の審議会でも、言っていましたよね。</p>
委員	<p>そうですね、話がありました。</p>
事務局	<p>これに関しては、当初予算には計上して議会の同意をいただいているので、予算上は記載があります。ただ補助金とは別に、出す出さないっていう議論があり、それは出さないという結論に関川村では決まっているということになりますので、予算書を転記するとこの数字になります。ただそれを執行する予定はないというのが現状になります。</p> <p>どうしてこのようになったかという、先に翌年度の予算を請求する前に補助金について結論を出してから、予算を編成すれば良かったのですが、間に合わないために予算を計上しましたが、補助金のあり方について考えた結果、出さないということになったというのが、前回の審議会での質問を受けて、調べた結果そういうことだということで報告したと、私は認識しておりました。</p>
委員	<p>前回の審議会の時、定住自立圏審議会があるんだから、少しでも連携して補助金か何かを出していただいて、一市二村で協力して物産展など物産振興に関わることをやっていただければよいのではないかと委員からもお話がありましたが、村上市も含めてその後は考えていただいてなかったでしょうか。栗島浦村さんの方には、3,000円補助金をいただいておりますが、その辺に関してぜひご検討いただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>担当につながさせていただきます。</p>
会長	<p>村上市はどうなっていますか。</p>
事務局	<p>ふるさと納税の事務を含め、物産振興の関係で予算については、このような状態であるとお話したと思います。観光課に予算について現状は変わらないのかという話をしたところ、現状のままとのこと聞いています。費用面ではなく物産展などの市外に出る回数を何とか増やしていきたいという話を観光課からきいております。</p>

委員	<p>外に出ていくとなると、やはり人件費ですとか、経費、設営費等も大分高騰してる部分がありまして、越後村上物産会の予算としてもふるさと納税でいろいろ特産品を販路を拡大する上でも、よそに出て行って、皆さんで販路を拡大して、やっていければいいよねなんて話をしているのですが、なかなか予算面で、ふるさと納税の収入が手数料収入ということになるので、それが一定化していない部分があり、ふるさと納税の納税寄附額が下がると、それと同時に事業者の収入にもよるのですが、物産会への収入というのもどうしても減ってくるような形になります。</p> <p>その中で、物産展を開催するというになると、関川村からいただいていた補助金の方も大変重要で、今まですごく活用させていただいてまして、そういう面では少しでもいいので、物産展に関わる費用として補助ということでご検討いただけないかなという、それこそ地元で開催する物産展等は、栗島浦村、関川村と村上市で、皆さん協力してやっている事業でもありますので、その辺少しご協力いただければなと思っておりますので、ぜひよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>委員のおっしゃるとおり、外に出ると費用がかかるというところは、観光課の方も十分承知しておりました。やはり地元にお金が落ちる仕組み、外に行こうか、中で売ろうか、本当にお金が落ちる仕組みが大事だということところは、観光課も強く言っており、その中で関係する団体とよい環境で売りたいというような話は聞いておりました。</p> <p>そこで、うまく事業が展開できるような仕組み、また別のやり方もあるかもしれませんが、委員がおっしゃる移動の費用の件もあると思いますが、この辺りもまた観光課と話をさせていただきたいと思えます。</p>
委員	<p>教育部門のことなんですが、先ほど事務局の説明もありましたが、理科教育センター、ことばとこころの相談室事業、図書館事業、視聴覚ライブラリーなど、これらの関係ですが、令和4年度コロナ禍が収まってきたということから、本当に息を吹き返したような形で事業というのが活発になってきております。</p> <p>図書館協議会も、事業が発展してきてる部分をとらえることができました。それで、やはり活動を保障してくれるのは予算だと思います。共生ビジョンの、18～20 ページに令和4年度と令和5年度の事業と見込が記載されております。</p> <p>私はこれ見て嬉しく思ったのは、令和5年度の予算がすべて、多くなってるんですね。つまり、予算が多いということは活動も活発にできることになる。本当に嬉しいことなんですが、その下に書いてある「事業費見込は現時点での連携市村の合計見込額を記載。毎年度の予算で具体額を定めます。」ということで、この令和5年度の軒並み予算増になっているのですが、この辺はどのようにになっているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>ことばとこころの相談室事業について調べてきておりますのでご報告させていただきます。</p> <p>共生ビジョンの冊子19ページの予算額でございまして、令和4年から令和5年の村上市分を比較しますと、410万程度予算、人件費が伸びてるということで、担当課に確認したところ、指導員の人数を増員しまして、今まで2人だったのを3人に増員したということで報告を聞いております。</p> <p>それで、ことばとこころの相談室事業につきましては、資料2の4ページになりますが、昨年と比べて50件程度相談件数は減っているということで聞いておりますが、こちらについては、コロナ禍で減ったということではなく、子どもの人数が減ったための影響ということで、その子どもさんに応じて月1回だったり2回だったり、週1回だったりということで、その子どもに合わせて対応できてるということでございました。以上です。</p>

委員	<p>これ見ますと、軒並み4部門あたりは、予算を増額にさせていただいていることもありがたいと思いますし、活動も一生懸命やっていたらなければならないというふうに感じます。ありがとうございます。</p>
委員	<p>防災士の養成についてですが、令和6年度までに331名ということで、40名増やすってということで、共生ビジョンを見ると令和3年から令和4年で17名増加していますが、令和5年11月18日、19日の養成講座は、申込者数をだいたい20名程度で予定しているのか。また、翌年はどういう防災士養成講座があるのかを聞かせてもらいたいのが1点と、分野が違うのですが、観光物産について大阪万博に対する圏域のPRや、物産展などの取組をやっているのか聞かせてもらいたい。</p>
事務局	<p>防災士の関係についてご報告させていただきます。こちらにつきましては、順調に防災士の養成講座を開催させていただいてまして、数も伸びているという状況でございます。</p> <p>それでこちらの委託料により、養成講座を開催させていただいているのですが、毎年27名程度の募集ができるように人数を確保できるような委託料としているということでしたので、このままいけば順調に防災士の数も増えていくのだろうということで予想しております。</p>
事務局	<p>2025大阪・関西万博に向けた取組ですが、村上市は全国の約600自治体による首長連合に所属しており、市長が役員となっております。</p> <p>昨年から活動をしておりまして、私どもの参加の状況としましては、東京圏であったり関西圏での物販もしくは、展示会に物産会からもご協力をいただきながら参加しておったところです。</p> <p>ただ、村上市内でのPRは正直していないところですが、メインの取組として2025年4月から10月までの期間に首長連合の1自治体として、ブースを設けたいと考えています。</p> <p>他に、新潟県が音頭を取り、新潟県ブースを設けてそこに参加しませんかという案内も来ております。市としても観光課、地域経済振興課が中心になって参加するなど提案していきたいと考えております。</p> <p>やはり村上市の売りというところで、食文化、伝統工芸品、このあたりを中心にしながら、PRできる分野を広げながら進めていきたいと思っておりますし、関係団体にも、随時情報を今年あたりから出していきたいと思っております。</p>
会長	<p>今岩船米など米が需要少なくなってきたというようなニュースもありますが、委員から何かございますか。</p>
委員	<p>米に関してはですね、コロナが5類に下がったということで、外出等が増えてきたということで、いわゆるBランク米の需要は非常に増えてきています。</p> <p>ただ、岩船米、新潟米コシヒカリについては、やはりコロナ禍の時の方が伸びていました。家でのご飯があったので、全体的にいうと需要は増えてきたんですけども、良質米というか一級品の米については、ちょっと伸び悩んでいるということはあると思います。</p> <p>ついでに質問いいですか。ごみの処理業務のところ、ゴミ排出の抑制に向け、分別の徹底は皆様をお願いしているところなんですけど、この普及啓発というのは具体的に令和4年度ではどのようなことをされたんでしょうか。</p>
事務局	<p>ごみの適正排出、環境を守るということで、毎年村上環境フェスタというものをおこなっております。ただ、令和4年度につきましては</p>

委員	<p>は、豪雨災害の影響によりまして、中止とさせていただいておりますが、今年度につきましては実施する予定です。また、村上市の場合ですと昨年度からLINEでごみの出し方を検索できるような仕組みを開始しており、ごみの回収方法や、リサイクルの方法を調べられるようにして啓発しているところです。</p> <p>先ほどいただいた公式LINE友達のところ、ゴミのことが並べて表示されてありまして、令和4年度は確かに回答いただいたように、なかなかできなかった。一番迷うのは、ごみの出し方です。いろいろ迷うところもあります。特に定住というか、ずっと住んでる方についても、自分の出し方で正しいというか、そうした思い込みがある。やっぱりゴミをなるべく出さないようにするのは、自然というか、地球環境に良いことなので、定住促進をしていく経費の中でやっぱり、少し力を入れていけばよいと思い、聞かせていただきました。</p>
委員	<p>それから岩船米のことで、軽微なことで申し訳ないですが、毎年、岩船農業振興協議会、JA 岩船米生産対策協議会の負担金納入の説明があるんですけども、内訳がどのぐらい負担金出してるか、わかったら教えていただきたい。</p>
事務局	<p>資料2の6ページのところに、令和5年度予算として4,102千円と書いてあります。</p> <p>岩船農業振興協議会は、719千円です。ここにJA 岩船米生産対策協議会とはありますが、負担金ゼロで、農業再生協議会の負担金が3,383千円となります。申し訳ありませんでした。</p>
委員	<p>福祉の子育て支援センターの事業について、お聞きしたいです。広域に広げて利用促進していただいているのは、とてもいいことだと思いますが、おそらく利用人数が年々減ってきていると思います。事業内容としては、お便りのタイプなど、情報を共有することだったり、2つぐらい上がっていたと思うのですが、例えば、今日NHKでこども家庭庁の「こども誰でも通園制度」というニュースをやっていたのですが、支援センターを利用して、ファミサポ的なことですよね。託児のそういった事業を取り入れるというようなことを、ここでこうした提案をしてもいいのかわかりませんが、そういったことをしながら、支援センター利用の普及啓発などを広げていくということをやってもいいのではないかと思います。</p> <p>どうしてかという、実は関川村の方から、私達も親子の交流広場などをしているのですが、ファミサポは関川村が1歳からの利用となっています。利用できる年齢が少し高いということで、一番困っている乳幼児期のファミサポといいますか、託児をしてくれる場所がないという訴えがありました。数件聞きましたので、その辺りを支援センター事業の広域利用でそういうことができれば、関川村の保護者も非常にありがたいのではないかと思います。</p> <p>もう1点ですけども、ことばとこころの相談室事業です。今、不登校のお子さんが過去最高に増えていると言われていますが、ことばとこころの相談室にも多分不登校に関する悩みなどの相談で、多分来てると思います。</p> <p>一応支援、指導、助言ということなのですが、例えば居場所的なものをことばとこころの相談室事業で行っていただくことが、可能ではないかと思いました。不登校の当事者が行く場所となると、今のところ適応指導教室、教育委員会でやっていますけども、多分混んでると思います。</p> <p>人が苦手というようなお子さんもいるので、予約制で利用するような形で複数名を同時に預かれないと思うんです。けれども、その不登校のお子さんが増えているっていう状況が村上市内でもあるので、そういった場所の支援と</p>

	<p>いいですか、そうしたことをことばとこころの相談室で、できないものかと思いました。</p> <p>子育て支援センターの事業ということで、こちらの資料に載せているデータは、平日は皆さん自分の市村の保育園に通われると思いますので、あえてこちらのデータには、土曜日の利用者ということで載せています。ご指摘いただいた通り、子育て支援センターの利用者数はあまり総数としてもそれ程伸びていないという現状がございます。</p> <p>理由としては、子どもたちが保育園に通う年齢が年々下がってきているということで、今までは保育園に通う前の子どもが結構メインの利用者層だったのですが、もっと小さいうちから保育園に通うようになってきているので、子育て支援センター自体の利用者数が減少傾向にあるということは把握しております。</p> <p>そしてファミサポとのコラボというご意見をいただきまして、ありがとうございます。ファミサポも支える側と利用する側ということで、双方の登録があるのですが、なかなかサービスを提供する側の協力があまり伸びてないような話も聞いてまして、やりくりも結構工面しておられるという話を担当課から聞いてます。貴重なご意見も今回賜りましたので担当課にそういったご提案があったということで、お伝えさせていただきたいと思っております。</p> <p>あわせて、ことばとこころの相談室事業につきましては、対象年齢が児童となっておりますが、児童の定義が18歳未満の方となっておりますので、もちろんその不登校のお子さんの年齢としては、ターゲットの中に含まれると考えております。</p> <p>また、不登校の今の貴重なご意見もいただきましたので、ことばとこころの相談室の所管はこども課ではありますが、学校教育課にも多くのお子さんの居場所づくりなど、そういった部分についてもご意見いただいたということで、報告をさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>実は私退職したあと、教育委員会で嘱託指導主事をやってまして、現役の時はことばとこころの教室の長をやってました。村上小学校の校長がやるということとなっております。</p> <p>それとあわせて、嘱託指導主事で不登校の担当もしており、今のご質問があった中で、実はことばとこころの相談室は、利用者がもういっぱいとなっています。障がいを持っている子どもたちの相談で職員が足りないぐらい、今は増えてるんですね。そこへ不登校の子どもも対応するというのは難しいというのが、現実だろうと思っております。その不登校の子どもについては、適応指導教室が各教育事務所にあります。そこがそんなに混んでるということではありません。先日、神林と荒川にお邪魔してきてます。受け皿的な部分のことで言えば、今は多分フリースクールのところへも村上市も、もう取り組んでいるだろうと思っております。以前だとなかなかそのフリースクールという次元までちょっとこう対応できなかったです。だから、幅を広げていくような形で、受け皿的な部分は今後できていくのではないかと思います。</p> <p>不登校に対応している教育委員会にはスタッフや嘱託指導主事が6人ほどいますから、教育委員会との相談の中で、進められると一番良いのではないかと思います。補足させていただきました。</p>
委員	<p>ありがとうございます。子育て支援センターはどこにあるのですか。</p>
会長	<p>ありがとうございます。子育て支援センターは市内で7ヶ所ありますが、市で直営しているものと指定管理でお願いしているところがあります。山辺里、上海府、荒川、神林、朝日、山北、あと村上いずみ園の中にもたんぼぽというところがあります。</p>

会長	関川村の方々は、近いところとなると荒川になるんですか。
事務局	関川村も下関保育園の中に支援センターすくすくがあり、相談などを受けています。
会長	栗島浦村もありますか。
事務局	はい。
事務局	委員、確認の意味で質問ですが、先ほど子育て支援センターとファミサポのコラボといいますか、ファミサポの人を使って子育て支援センターで小さい子どもを預かるようなイメージですか。
委員	私のイメージは、例えば1日に1人とか2人しか利用がないような支援センターもあるはずなんです。それはちょっと聞いてはいるので、そのような支援センターを利用して職員が見るというイメージでした。
事務局	支援センターの職員が預かり役といいますか、提供会員の役目を果たすということですね。
委員	それも可能だと思うのです。ファミサポの方が子育て支援センターに入ることでも可能かなと思います。
事務局	スタッフを融通し合うではないですけども、（スタッフが）足りてないところに十分足りてるところの方を融通し合うようなイメージ。
委員	そうですね。ファミサポって、自宅にお子さんをお預かりして一対一で見るというスタイルなんです。そういう制度なんですけども、例えば上海府の支援センターで職員が2人いますよね、そこにファミサポの提供会員さん1人来てもらったら、3人の目があるっていう状態になるじゃないですか。あそこだったら、もう2人ぐらいお預かりできたりとかしますよね。そういうことをしても面白いかなと思いました。 新潟県は、モデル事業に手を挙げていないんですよ。さきほどお話しました「こども誰でも通園制度」には手を挙げてないけれども、先駆的に他の自治体でもやっていたところもあるので、それやりながら徐々にモデル事業に手を挙げるというのでもいいのかなと思います。
事務局	ありがとうございます。
委員	資料1の4番の自殺予防対策事業について、令和4年度は様々な研修会をやってるようですが、ここ1～2年の間に私の知っている方も、自殺してるんですよね。原因はうつ病だったみたいなんです。令和4年度では村上市というのは、前から自殺率が高いと聞いてました。大体全国から見てどの程度の位置にいるのか、また令和5年度についてはどういう事業、自殺に対しての研修とかそういうものを計画してるのか、その辺を聞かせていただきたい。
事務局	まず、令和4年の村上市圏域内の自殺者数についてですが、村上市が11人で、関川村2人、栗島浦村は0人であり、圏域内での合計人数は13人となっております。 傾向としましては例年なんですけれども、男女とも高齢者の方が多いということで、その次に多いのが働き盛りの男性の方となっております。 そういった傾向をプロファイリングした資料等もあるんですけども、考え

<p>委員</p>	<p>られるものとしてやはり鬱の方。そこに至る原因としては、病気を苦にされて鬱になられる方でしたり、それからお仕事の関係で、生活苦からそういった形になられる方が多いようなプロファイリングが出ております。</p> <p>それで、そちらについての取組ですが、いわゆる一般的なゲートキーパーの養成講座や講演会、茶の間、通常の啓発に加えて、うつスクリーニングというものを実施しております。例えば赤ちゃん訪問の時に、お母さんに対するうつスクリーニングや、30歳から64歳の特定健診受診者の中で、うつスクリーニングアンケートを実施して、回答によっては面接や訪問を行うとか、それから高齢者の方にも、基本チェックリストを実施するという事で、そういったものを通して、悩んでる方がいらっしやるかどうかのスクリーニングを行っているという状況でございます。</p> <p>こちらの事業に関しては、一生懸命やっているといます。自殺についてであれば、先ほどありましたけど、理由はその方にとって一つや二つではないし、様々な理由があるので、対策というは難しいです。周りの人の気が付くか、付かないかというのが一番大きいのかなと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど全国的に見てどうなのかというお話でありますけども、村上市の令和2年度の10万人当たりの自殺死亡率データがあるのですが、令和2年度においては、人口10万人当たり村上市が16.9人という数字が出ております。全国平均でいくと16.4ということで、多少上回ってるというような状況であります。その年でかなりばらつきがあるのですが、例えば平成30年においては、全国平均が16.2に対して、村上市の平均が30.9ということで、これ以上に多い年もあります。</p> <p>ここ10年ぐらいを見ますと、平均よりはすべて上であり、少し残念な結果となっております。</p>
<p>委員</p>	<p>村上市岩船郡の森林のことでお願いになるかもしれませんが、聞かせてください。昭和50年代から造林がものすごく流行っておりまして、その頃村行造林として山に杉が植えられました。</p> <p>けれども、全然手入れされてない。個人所有のものもありますし、団体所有、生産森林組合所有など様々あります。杉材が安いということで、手入れされてない部分が相当あるかと思えます。</p> <p>また、個人的な山の所有者については、そういうことで手入れも販売も何もされていない。安かったせいもあるかもしれませんが、手入れされてない。手入れされていないと、ますます単価は下がるし、多少いい値段で売するには手入れが必要です。そのためにはどういうことが必要かということ、森林経営計画を立てながら管理すれば補助金も出るということですが、その手入れの仕方を普及していただきたい。</p> <p>今出てきた問題については、やはり酸素を供給するには山であり、森林です。酸素を供給するにあたって、手入れしない山は酸素供給されないし、また環境税など様々今出ておりますが、いい品物を出す、森林を豊かにする、酸素を供給するには、手入れが必要だと思います。</p> <p>その方法として、一般の人または生産森林組合等の団体に、森林を手入れする意欲を持たせるような政策を、今後していただきたいと思いますが、その辺どういう計画があるのか聞かせていただければ幸いです。</p>
<p>事務局</p>	<p>意見ありがとうございます。</p> <p>おっしゃるとおりで、林業部分についてはしっかり管理・整備をしていくことが必要と考えております。具体的に計画はどのようなものがあるかと言われますと、今持ち合わせてはいないのですが、先ほど委員からお話のありました森林環境譲与税を活用した事業が令和3年度から始まっており、今年90,000千円あまりの予算がついているところでございます。</p>

委員	<p>これによって、航空写真を撮って森林情報のデータベースを整備する。あとは森林の経営体に間伐・主伐関係の支援をする。そのような取組を順次計画立ててやっておるところでございます。</p> <p>また森林環境譲与税を使いながら、事業体、もしくは起業される方もしくは森林について学びたい方に対する、セミナーを実施することで、アドバイスをできるような体制づくりを考えてるという話をしました。いずれにしても、森林の間伐については当然ではございますが、主伐後の植林再造林だとか、この辺りも含めて計画立てて進めていきたいという話は聞いております。委員からのご意見は林業担当にも伝えたいと思います。</p>
事務局	<p>その辺所有者や団体の人たちは、わからない人もあると思いますので、宣伝をして皆さんがわかるようにそういう周辺の整備を、計画を整備していく意欲を持たせるような宣伝をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
委員	<p>補足であります。</p> <p>今の脱炭素の取組が、日本全国世界中で行われているわけですが、村上市、関川村もそうですけれども、これだけ豊富な森林資源がありますので、やはりそれを活用しない手はないだろうということで、関川村も先行してはありますが、木質バイオマス発電事業に取り組んでいるところであります。</p> <p>村上市におきましても、神林支所の脇で小規模ではありますが、木質バイオマスを発電しておりますし、今後そういったものを展開する中で、やっぱりその森林資源は活用していこうということで、関係者と協議を進めてるところであります。乾燥施設が少ないとか、材料のチップを作る施設がないなど、課題はいろいろあるのですが、一つ一つその辺は丁寧に、クリアしていきたいというところであります。</p>
事務局	<p>ただ、個人所有者については、自分の山がどこにあるかわからない人が、余計であり、それを解決するのはやっぱり今である。だんだんと年数が経つにつれ、わからなくなってきましたから、できれば早めにそういう個人所有のものをわかって、次そういう事業を進めていったら、うまく行くのではないかと思われます。長く年数が経つにつれ、本当の所有者の山がどこにあるのか、わからなくなりますので、早めにお願ひしたいと思ひます。</p>
委員	<p>その点で個人所有の関係については、今の何年スパンになるかはありますけれども、森林環境譲与税の制度が創設されてから、個人の方に村上市で意向調査を実施し始めています。自分ところの山をどう今後どういうふう管理していくのか、こういったものを例えば、森林組合さんにお願ひしたいだとか、村上市にやってもらいたいんだという意向調査です。一気ににはできませんけれども、地区ごとにやっていますので、そこで自分ところの山はどこにどのぐらいあるのだろうという認識も持てると思ひますし、これがいいきっかけになると思ひます。</p> <p>それから、当然森林計画を樹立していかなければならないという話になりますので、そこは森林組合はじめ、林業事業体の皆様にも、いろいろと尽力いただいて、委員がおっしゃったように森林は手付かずではいけないので、精力的にやっていく必要があります、農林水産課もそこは今考えていると思ひますので、そこはご意見をお伝えしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。</p>
委員	<p>今説明いただいた通りですが、ただ実情としましては、山というのは常に一定の条件ではありません。急斜面のところもあれば、平らなところもあります。</p>

	<p>そこにかかるコストを考えたとき、材価が昭和 55 年をピークにどんどん下がってきてるんです。輸入材は半分以上占めています。国内の需要において、国産材を使うように言っていますが、コストが高いのです。高いとはいうものの、実際山主にすれば当時の価格の 10 分の 1 です。</p> <p>昭和 55 年から比べると、今の材価が、石あたり 3,000 円ぐらいです。1 本 12,000 円かぐらいなんですね。要するにそのような山主が、それであれば切らないって言う。いわゆる山が育たないから切りなさい、切りなさいって言うわけです。</p> <p>県林政課からも、主伐再造林、これから移行していきます、間伐はやめて、大きくなった伐期、ちょうど適齢期の木をどんどん切って植えなさいって言うのです。植えないと駄目ですよってということなんです。</p> <p>それにかかるコストは、1 ヘクタール当たり、50 年 60 年の木を切って、大体 90~100 万円ぐらいになります。それが山元に、本来であれば返すお金なんですけど、そこに出す費用ってというのは何だかんだ引いて 80~90 万円渡せればいいという程度です。</p> <p>そのあとに、植える植栽の手間賃、その苗代、それから 3 年ぐらいの管理、下刈りをみんなやるわけです。そこに関わる費用と、トータルすれば 1 ヘクタールにかかる費用を全部含めると、120 万円ぐらいなんです。赤字なんです。だから切っても売れないって人が結構多いんです。それが現実であり、これをいかに植えるかが大事である。</p> <p>脱炭素にしても、今その老齢化して、古い木は炭素吸収量が少ない。今は若い木を植えて、これから何年後かには炭素吸収量が余計になるという方法で、とにかく植えなさい、植えなさいと言いますが、結果的に植える費用と、いかに山主に多く還元できるかということこれから考えなければならぬと思います。</p> <p>ただ一つ言えることは、この脱炭素に関しては本当に深刻な問題ですので、我々もどんどんやっていきたいのですが、あくまでも個人の山ですので、個人が所有してる山主に、同意を得られなければ切ることもできず、それ以上の作業もできないわけです。</p> <p>今、市ではいろいろ意向調査やっていますが、中には今はそんな安い時に切って、そんなところにお金かけたら赤字だから植えないっていう人います。その辺の打開策を考えていただかないと、簡単ではないというところなんです。いろいろ問題あるのです。</p> <p>それではこのあたりで議事の方は終えたいと思いますので、進行は事務局にお返します。</p> <p>6. その他 〈事務局より事務連絡〉</p> <p>7. 閉会 では以上をもちまして、令和 5 年度第 1 回村上岩船定住自立圏共生ビジョン審議会を終了させていただきます。 本日は大変ありがとうございました。</p>
会長	
事務局	
事務局	